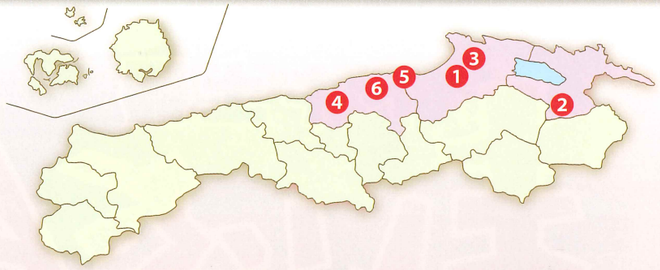
島根県の
最新発掘
情報 平成28年度(下期)

GUIDE 発掘調査ガイド



数十万年前～	約12000年前～	紀元前5世紀～	3世紀～	7世紀～	710～	794～	1192～	1338～		1573～	1603～	1868～
旧石器時代	縄文時代	弥生時代	古墳時代	飛鳥時代	奈良時代	平安時代	鎌倉時代	南北朝時代	室町時代	安土桃山時代	江戸時代	近現代
		④⑤	③		②			⑥				①

●発掘調査中の遺跡には、深い穴や急傾斜地など危険な場所があります。事故などのおそれがありますので、くれぐれも無断で立ち入ることがないようお願いします。
■掲載した遺跡についての問い合わせ：島根県教育庁埋蔵文化財調査センター　TEL 0852-36-8608

❷史跡出雲国府跡（松江市大草町）　古代の政庁跡の建物を発見！

出雲国府跡の実態を解明するために平成11年度から発掘調査を行っています。今年度は政庁正殿の東側を7月から12月まで発掘調査し、政庁正殿が建てられる以前にあった総柱掘立柱建物の規模を確認したほか、これまで政庁内では確認されていなかった礎石建ちの建物など４棟を発見することができました。その他にも古墳時代の竪穴建物跡や、中世や近世の遺構を確認しました。遺物は須恵器、土師器、緑釉陶器、瓦などが大量に出土しました。特にこれまで出雲国府跡で見つかっていなかった山代郷南新造院跡出土の軒丸瓦と同じ模様を持つ瓦が出土したことは注目されます。今回の調査では、これまで不明な点が多かった政庁正殿、周辺の状況を検討する資料を得ることができました。

古代の遺構の検出状況

史跡公園と調査区

出雲国府跡で見つかった軒丸瓦

MAP

丘陵斜面の集落跡　❹松林寺遺跡（大田市仁摩町）

一般国道９号（静間仁摩道路）の建設に伴い、９月から11月に発掘調査を行いました。遺跡は「仁摩・石見銀山IC」の近く、潮川を望む標高約30mの丘陵斜面にあります。調査により、掘立柱建物、加工段（当時の作業スペース）、土器埋設遺構、土器溜まり（土器が集中して見つかった場所）が見つかりました。このうち、土器埋設遺構は、土師器の大型の壺を横倒しにして、わずかに地面を掘りくぼめて土器を置いたものです。

遺跡からは弥生土器や土師器の壺、甕、高坏、鼓形器台などが出土しました。特に遺跡の中の谷状の地形のところから多く見つかりました。地元山陰の土器のほか、北部九州系の壺が出土しており、日本海を介した地域間の交流が行われていたことがわかりました。

松林寺遺跡のある丘陵の下には、同じ時期の集落遺跡である大国地頭所遺跡があることから、潮川の右岸の丘陵斜面から丘陵裾にかけて、集落が営まれていたことがわかりました。

土器埋設遺構

古墳時代の集落跡
❺平ノ前遺跡（大田市静間町）

一般国道9号（大田静間道路）建設に伴い５月から12月に発掘調査を実施しました。大田市内を流れる静間川の河口付近に位置しています。

今回の調査では、古墳時代中期から後期ころの灌漑用水路跡などが確認されました。この水路跡では、出土した遺物から祭祀が行われていたことがわかりました。また、祭祀遺物とともに装飾品の一部である金銅製歩揺付空玉も出土しました。歩揺付空玉は朝鮮半島製の可能性があり、島根県では５例目、歩揺付空玉にかぎると２例目の発見になります。首長クラスの有力者による水辺の祭祀の様子を知ることができました。

平ノ前遺跡（南上空から撮影）

金銅製歩揺付空玉

水路跡から出土した遺物

丘陵麓の集落遺跡　❸浅柄Ⅲ遺跡（出雲市知井宮町）

浅柄Ⅲ遺跡は一般国道９号（出雲湖陵道路）建設に伴い、７月から12月にかけて発掘調査を行いました。遺跡はＪＲ西出雲駅の南西側の小さな谷あいの標高８～ 12mに位置しています。東向きのゆるやかな斜面から、掘立柱建物跡や溝跡、作業スペースや居住するために斜面を加工した平坦面が発見されました。また、煮炊するための甕や甑、移動式の竈、土製支脚、須恵器など（出雲平野の集落跡でよく見られる土器類）が出土しました。この遺跡は、出土した土器から７世紀後半に営まれていたことがわかりました。

また、斜面を加工した平坦面の山側から出雲平野では初めてとなる幅0.5m、長さ1.4mの造り付けの竈が見つかりました。これまで造り付け竈は、大田市東部や飯石郡飯南町などの集落跡から見つかっていました。

浅柄Ⅲ遺跡から移動式の竈と造り付けの竈が見つかり、竈をどのように使い分けていたのか、時期の違い、使用者の出身地の違いなど新たな謎が出てきました。

加工段と山側の造り付け竈

造り付け竈

MAP

中世の城館跡　❻静間城跡（大田市静間町）

一般国道９号（大田静間道路）建設工事に伴い５月から12月にかけて発掘調査を行いました。山城は主郭と北郭の２箇所の郭（平坦面）を中心に構成されており、主郭で掘立柱建物跡４棟と礎石建物跡２棟、土塁の一部が２箇所、北郭で多数の柱穴群とともに鍛冶炉跡が発見されました。

建物跡が発見された主郭の東側先端部や中央部分には多量の土砂が厚く盛られていたことから、主郭の平坦面を造り出すために大規模な造成が行われていたこともわかりました。

遺物の多くは備前焼の擂鉢や壺、中国製の青花や青磁の碗・皿などの日常雑器でしたが、中には水指や天目茶碗、茶臼などの茶道具と考えられるものも含まれていました。これらの遺物は15世紀後半～ 16世紀後半頃のものであり、山城の存続期間もこの時期と考えられます。

主郭で発見された建物跡

主郭の造成土堆積の様子